物価高騰と負担増からくらし守る

今こそ、福祉・医療 子育て応援の町政を

邑楽町のみなさん、はじめまして新村たかのりです。

生まれは、栃木県栃木市、縁あって三洋電機への就職を機に大泉町の独身寮を経て、邑楽町に転居しました。以来18年間お世話になっています。

日本共産党との直接の出会いは、「環境」の名を使い荒稼ぎをしようとする町外からの事業者から邑楽町を守る運動で、頼りになる相談相手だった大野貞夫町議を通してです。この運動で住民の立場、弱者の立場に立って私心なく頑張る日本共産党への入党は私にとってはいわば「必然」でした。

今、物価高騰やコロナ、介護や医療費の負担増で暮らしは大変です。私は、邑楽町の子どもからお年寄りまで、誰もが大事にされ、安心して住み続けられるまちづくりへ、切実な願い実現へ、何としても議会に駆け上がるために全力をつくす決意です。

新村たかのり

新村さんにバトンタッチ

私は、今期限りで議員を引退します。中野在住の、新村たかのりさんがバトンを引き継ぐことになりました。

これまで私にお寄せいただいたご支援を今度は新村さんによろしくお願いします。本当に、長い間ありがとうございました。

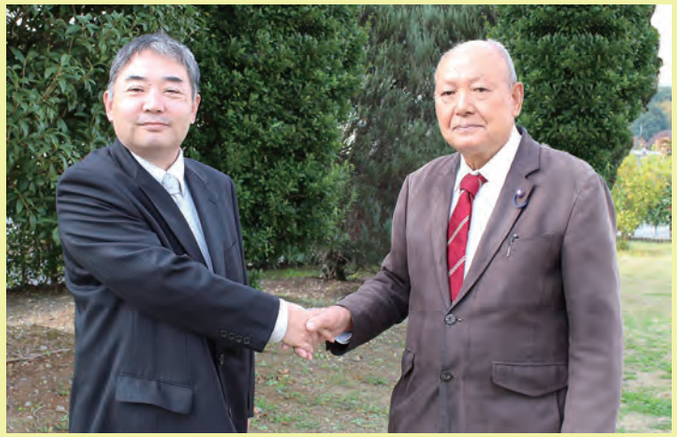
町議会議員 **大野さだお**

プロフィール

- 1967年（昭和42年）栃木県栃木市生まれ。栃木県私立葛生高校卒業。
- 1985年～2013年三洋電機株式会社。13年経済産業省関東経済産業局。千代田町・邑楽町環境を考える会事務局長。
- 19年日本共産党入党。
- 現在／党くらし・雇用相談室長。
- 家族／妻・長女。
- 趣味／読書。音楽鑑賞。
- 自宅／邑楽町中野 1623-24

電話 090-3524-8600

e-mail：niimuratakanori@yahoo.co.jp



大野貞夫町議からバトンをしっかり受け取ります

無料法律相談会

■日時/毎月第1金曜日（祝日を除く）
午後6時～
■事前にご予約をお願いします。
■予約・問い合わせ：TEL090−2933−2158まで
■プライバシーは厳守します。ご安心ください。

福祉の心いきづく あたたかい町政に

日本共産党 くらし・雇用相談室長

にいむら貴紀

新村たかのり

55歳

邑楽民報 ご意見・ご要望をお寄せください。TEL・090-3524-8600

2022年冬号外 ●日本共産党邑楽支部の見解をお伝えします。

発行／邑楽町中野717-5 TEL・FAX0276-88-5186

実現めざす新村たかのりのお約束

●コロナと物価高騰から住民の命と暮らしを守ります
- 検査体制及び医療体制の充実。ワクチン接種の迅速化。
- 一定期間、水道料金を無料化。家計を応援します。

●子育てを応援します
- 学校給食費の完全無料化。高校生世代までの医療費無料化。
- 返済不要の給付型奨学金制度を創設します。

●車がなくても暮らせるまちづくりを進めます
- 路線バスとデマンド交通を取り入れた、公共交通網の整備
- 高齢者へのタクシー券の支給を増やし、気軽に通院や買い物に行けるようにします。

●地域医療を守ります
- 国保税の一世帯１万円引き下げ。介護保険料・利用料の負担軽減。
- 地域医療の再生。厚生病院の医師確保を

●住宅リフォーム助成制度の充実、店舗リニューアル助成制度の復活

●ジェンダー平等の邑楽に。誰もが自分らしく生きられるまちづくりを

●有機農業の奨励など特色ある産地づくりをすすめます

応援します

環境問題を通じて、住民の不安解消のために、日夜奮闘してきた新村さんを見て、こういう人こそ、邑楽町議会に是非必要だと感じています。心から応援しています。

邑楽町４区　前原地区在住
千野　定夫

新村さんとは、邑楽町でのパーム油バイオマス発電所計画について、日本共産党から紹介されて以来のお付き合いです。

福知山で、この発電により騒音、異臭の公害が発生 50 軒以上の被害が出ているが行政は動かず、事業者は住民と約束した対策を一切守らないどころか、「事業をやめて欲しければ6億円払え」と理不尽な態度をとっていることを伝えましたが、新村さんは「私はあきらめません。地域住民と一緒に事業者とたたかいます」と言われたことをはっきり覚えています。その結果 福知山市では、事業中止になり邑楽町でも事業が凍結となっています。

新村さんが、邑楽町の自然や環境、住民の皆さんの生活を守りたいとの思いから、町議会に挑戦すると聞き、「パーム油バイオマス発電所」反対運動の仲間たちを代表して新村さんを推薦し応援致します。

京都府福知山市　三恵パーム油バイオマス発電所被害者の会
三谷　義臣

環境守れへの情熱を今度は町政へ　新村たかのり ものがたり

栃木県生まれ、ものづくり関東一の地域にあこがれ就職

1967年栃木県 都賀町(現栃木市)生まれ。高校時代、ラジカセへのあこがれがつのり、卒業後大泉町の三洋電機に就職。町内の独身寮での生活がはじまりました。

独身寮での生活の中、寮自治会長に

入社後は、持ち前の「正義感」から独身寮の自治会長に。当時電機メーカでありながらエアコンもない2人部屋の劣悪な住環境。会社との交渉を重ね、エアコン一人部屋が実現。老朽化した共同浴場や食堂も改善。この経験をとおして、切実な願いは、絶対あきらめず交渉する事の大切さ、言い続ける事の大切さを学びました。

独身寮のスキーツアーにて。前列右端が新村さん

関東経済産業局消費税転嫁Gメン時代

経済産業省関東経済産業局に入局。「消費税単価Gメン」として活動しました。様々な中小企業の経営者の方々との生きた交流は、その後の人生にとって貴重な経験に。

消費税は、不況の中で転嫁するとお得意さんの経営を厳しくさせてしまうため、本体価格を下げる判断をした中小業者の実態に触れた新村さん。「下請けの方たちを思う心に胸が熱くなるとともに、弱い者いじめの消費税の実態に直面し、政治の理不尽さを実感したことを今でもよく覚えています」と話します。

パーム油バイオマス発電所反対運動に参加。建設計画凍結へ前進。いつも最前線でともにたたかってくれた日本共産党に入党

発電所反対集会で訴える新村さん（右から2番目）

「三恵パーム油バイオマス発電所」被害者の会やパーム油の国際的問題について、日本国内で情報発信をしている国際NGO「ウータン森と生活を考える会」とも連携。地元のみなさんと団結して、事業に関する疑問や問題について事業者に質問をし続けた結果、回答できず事実上計画は凍結に。まさに近隣住民の団結が公害をおこす事業を阻止した結果となりました。

常に、運動を励まし、議会や行政につなぐなど、最前線でともにたたかってくれたのは、大野貞夫町議や日本共産党の県議や国会議員さんでした。「この党と歩んで行こう」とすすめられ入党を決意したのは2年前。

「環境守れ」の運動で培った経験を今度は町政へ。全力でがんばります。